

10月

10日

開 会 式

午後2時から国立競技場で始まり、参加選手の入場行進の後、天皇陛下による開会宣言が行われ、聖火の最終走者、坂井義則が入場しました。坂井は、1945年8月6日の広島に原爆が投下された日に、広島県に生まれました。聖火台に点火された後、平和の象徴として8,000羽の鳩が放たれ、航空自衛隊の5機のジェット戦闘機が、会場の上空に5色の五輪を描きました。

20日

柔道 初の競技

初めてオリンピックの競技となった、柔道。軽量級・中量級・重量級・無差別級の4つの種目が行われ、日本で生まれた競技として、全種目で日本人選手が金メダルを獲得することが期待されました。無差別級でオランダの選手が優勝したことにより、日本の期待通りの結果にはなりませんでしたが、大いに盛り上がり、その後、オリンピックの競技として定着していきます。

21日

マラソン

アベベの二連勝

つぶらや
円谷の活躍

前ローマ大会で優勝したエチオピアのアベベが、2時間12分11秒2の世界最高記録、五輪新記録で二連勝を果たしました。アベベは、ローマ大会ではだしで走ったことから、「はだしの王者」と呼ばれ、前大会に続いて注目されていました。日本選手も、円谷幸吉が3位でゴールし、大変な盛り上がりを見せました。

バレーボールでは、日本選手が大きな活躍を見せました。大会14日目に行われた男子バレーでは、日本がオランダを破って3位に入賞しました。続いて行われた女子バレーでは、日本チームが優勝。女子バレーの日本チームは「東洋の魔女」と呼ばれ、その驚異的な活躍が称えられました。

“東洋の魔女” バレーボール

23日

体操

22日

23日

日本選手は、男子団体総合・個人総合・つり輪・跳馬・平行棒で優勝し、女子団体総合も3位に入賞しました。体操では、日本選手だけでなく、外国選手も人気が出ました。チェコスロバキアのチャスラフスカは、女子個人総合・跳馬・平均台の3種目で優勝し、人気を博しました。

24日

閉 会 式

選手団の入場。開会式とは異なり、各国の旗手が入場した後、選手が一同となって入場しました。そして、聖火が消え、大会は幕を閉じました。